

令和5年度 江戸川区立小松川第二小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	「からだも心も健康な子ども」 ・よく考え工夫する子・思いやりのある子・力を合わせやりとげの子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	みんなの笑顔があふれる学校 いつも にこにこ 二小松の子 子供のために研究と修養に努め、互いに切磋琢磨する教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> ○ ○資料の収集の仕方等の指導を強化し、児童の調べる学習満足度84%につながった。 <課題> ●診断テストの目標設定を見直し、段階的に達成できるようにする。また、診断テストの結果を分析し、課題を見つけてその領域を中心に指導を行っていく。 ●体力テストでは全学年を通して、東京都の平均とあまり変わらないか、やや下回っている。全校的に体を動かす機会を多く作り、基礎体力を高めていく。		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策	
				取組	成果	成果と課題	評価		コメント
学力の向上	<学力の向上> ・「学力向上アクションプラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	東京ベーシックドリルを活用した授業改善	東京ベーシックドリル診断テスト正答率70%以上を目指す。	B	B	現在の学年のベーシックドリルに取り組んだが、正答率はばらつきがあったものの昨年度よりは正答率が上がった。(68%~85%)。	B	他の教科も指標を活用することにより、児童の学力を把握することに努めてほしい。数値による状況把握は今後も必要である。	令和6年度は加配教員が中心となって指導する習熟度別学習の結果や学級単位で指導する東京ベーシックドリルの結果を踏まえて、学期ごとに学力向上への取組を評価していく。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	図書館資料を活用した探究型の学習を実施(読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等)	図書館を活用した調べる学習にすすんで取組んでいると考える児童の肯定的回答80%以上を目指す。	B	B	過去の研究を基に、図書館資料を活用した学習を実施した。調べる学習満足度86%	B	小松川図書館司書、学校図書館ボランティアの支援があり図書館や廊下の掲示物を工夫している。	教員が総合的な学習の時間、社会科など、教員が調べる学習の時間に学校図書館を活用し、児童が本を手に取り学習する時間を増やすなど、学校図書館の利用増進を図る。
	<道徳教育の充実> ・授業力の向上と評価の充実	「考える道徳」「議論する道徳」を意識した授業	児童が考える「考える道徳授業」「議論がある道徳授業」、道徳授業にすすんで取組んでいると考える児童の肯定的回答80%以上を目指す。	B	B	「考える道徳」「議論する道徳」を意識して取り組み、児童の満足度84%	B	道徳授業を広く地域に公開した取組を今後も続けていくことが望ましい。特別の教科道徳に係る教員の指導力向上に期待する。	教員が望ましい学校生活、いじめの防止に関係する授業を行ったあとの授業評価の充実を図ることで、教員自身の指導力を向上できるようにする。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・体育の授業や休み時間における運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	1 体育的行事、体力テストにおける指導の充実 2 各学年曜日を決めての運動遊びの実施 3 学期に一度、なわ跳びチャレンジウィークの実施	児童の運動意欲に対する調査すすんで体を動かしていると考えられる児童の肯定的回答80%以上を目指す。	B	B	各学年、休み時間に運動遊びに取り組み、運動意欲の向上を図った。児童の満足度80%	B	休み時間に遊ぶ児童が多く見ることができた。体を動かす習慣が健康維持や体力向上につながると考えている。	教員が江戸川区施策である体力向上への取組を推進する。また、児童が運動に親しむことができるよう、教員の体育科指導力向上を図る。
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	巡回指導教員 特別支援教室専門員 スクールカウンセラー 巡回心理士との相談体制の連携	個に応じた指導、支援に係る児童の学校生活満足度調査において児童の肯定的回答80%以上を目指す。	A	A	校内委員会を定期的に行い、個に応じた指導・支援を行っている。巡回指導員・特別教室専門員とも密に連携して相談体制が取れている。児童の満足度91%	B	月一回以上校内委員会を設け、多くの職員が児童の情報共有を行っている。児童が困ることを相談できる専門職の配置が丁寧な指導や児童の調査回答につながっている。	教員が多様性社会の現状に基づいた教育指導を行い、児童が自他ともに大切にできる心性を育成する。特別支援教育の実践においては、巡回心理士、スクールカウンセラー、巡回指導拠点校の教員と連携を図る。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化	ふれあい月間の取り組み QUTテストの活用	児童の悩み対応、学校生活相談等、教員の対応に関する児童の満足度、肯定的回答80%以上を目指す。	B	B	ふれあい月間でのアンケートやQUを実施・分析し、児童の悩み等への対応を行っている。児童の満足度91%。	B	二学期以降に開始となる別室指導支援の取組を充実してほしい。調査等の結果を基に児童の健全育成に努めてほしい。	不登校支援の取組を進めること、また児童相談所、要保護児童対策協議会の情報を教育活動に生かし、児童の健全育成を図る。また、別室指導支援員活用を促進するため、本校の取組状況を保護者に発信する計画を立てる。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校の取組の積極的な発信> ・学校ホームページの充実等 ・学校公開の実施・充実	各学年、行事担当者他、週3回以上の更新	毎日1回ホームページの更新実施率、80%以上を目指す。	A	A	毎日の給食と1日1回以上のホームページの更新を実施している。保護者の情報発信満足度82%	B	給食紹介の情報提供、学校日記の適時更新は継続してほしい。学校公開における通常授業の公開に加え、安全教育などの授業も保護者が参観できる機会を設けてほしい。	学校ホームページの更新頻度を増やし、保護者や地域が必要としている情報提供に努める。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	保護者アンケート、学校関係者評価の実施・活用	学校関係者アンケート実施における教育活動への肯定的回答80%以上を目指す。	B	B	保護者アンケートを12月に実施。11項目中10項目で保護者の肯定的評価が80%以上となった。	B	調査結果に基づいた学校評価の実施が望まれる。計画的に実施してほしい。	学校関係者評価の結果を教育課程の見直しや改善に役立てる。また、令和5年度同様に児童アンケートによる調査を複数回実施し、児童の実態を把握する。
特色ある教育の展開	<異学年交流> にこにこ班での活動の実施	にこにこ班活動 行事等での異学年交流活動	特別活動指導における児童の活動満足度、肯定的回答80%以上を目指す。	A	A	年間を通して計画的ににこにこ班での活動を行っている。活動を楽しみにしている児童が多い。児童の活動満足度91%	B	高学年児童が低学年児童に本を読む、また班活動で一緒に遊ぶなど、取組を継続してほしい。	教員による特別活動の充実を図り、より児童の実態に応じた教育活動の実現に努める。
	<小中連携教育の推進>	中学校での部活体験 教職員の授業公開・意見交換	中学校の連携、体験学習における児童の満足度、肯定的回答80%以上を目指す。	B	B	10月に小松川二中で部活動体験が行われ、6年生にとって有意義な体験となった。児童の満足度92%	B	これまでどおり、学校間で児童・生徒の情報を共有しながら小松川地区の児童の健全育成を行ってほしい。	小中連携教育研修の充実を図り、関係学校との連携を深める。このことで、教員の小学校・中学校の教育活動の接続に対する理解を深める。